

平成 30 年度第 1 回子ども読書活動推進会議議事録

日時	平成 30 年 7 月 26 日（木）10：00～12：00
場所	福岡市赤煉瓦文化館 会議室 3
議題	・子どもの読書活動推進に関する実態調査について ・福岡市子ども読書活動推進計画（第 3 次）の進捗状況について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし

1 開会

事務局挨拶

2 委員の紹介

各委員・団体の紹介

3 委員長・副委員長の選出

4 報告・協議

(1) 子ども読書活動に関する実態調査について

報告資料に基づき、事務局説明

(2) 福岡市子ども読書活動推進計画（第 3 次）の進捗状況について

報告資料に基づき、事務局説明

委員長 ただいまの報告に対して質問やご意見などをいただきたい。

委員長 川島隆太氏の「スマホが学力を破壊する」という本に、仙台市の教育委員会と協力して行ったスマホ等に関する調査が載っていた。その調査では、勉強を 4 時間ぐらいしてその後スマホをする子と、勉強時間は 30 分ぐらいだがスマホを一切しない子の試験の成績を比較しており、前者の学力の方が低いという結果が出ていた。

スマホの使用をやめると成績は上がるとのことだが、スマホは学力や思考力を阻害する要素があるかもしれないため、子ども達のスマホ使用やゲームについてもしっかり考える必要があると感じた。

委員 スマホやインターネットの使用そのものではなく、スマホやインターネットを使用してゲームや SNS をすることが課題である。実際、ICT を導入している学校では、スマホを使用して学習をしたり、インターネットを使用して論文をダウンロードしたり、電子書籍などで活字を読んだり、メディアを使って発信したりするという活動がなされつつある。読書の定義を広くとらえる必要がある。

幼稚園や小学校ではどちらかというと文学的な文章、中学や高校になると説明的、論理的な文章を読む機会が多くなっていく。本という形ではない様々なメディアの活字を読む機会も増えているため、そこを精査する必要がある。

委員長 電子書籍や電子ジャーナルもある。また、インターネットを通して論文を見ることが出来る。成長して、そういった使い方に結びつくと良いが、子どものうちにゲームなどに集中しすぎることは考えていく必要がある。

読書とメディア機器を上手に使いわけていくことが大事だが、その基礎を作るのは小さい頃の読み聞かせ等の読書ではないかと感じる。

委員 私の子はメディアの関係会社に就職したが、大人になって、つい最近から文庫を読み始めた。理由は、メディアの文書は寄せ集めの文書、コピーの切り貼りのように感じ、思考が浅くなった気がするためだということだった。

文学書や辞書などの本を買ってあげようかという、「要らない。家が狭くなるから買わないし、パソコンで間に合っている。」とのことだったが、自分の子どもが生まれてからは子どもにたくさん本を読ませるようになっている。

委員 高等学校では、発達段階的に読み聞かせは馴染まない面もあるが、私はビブリオバトルに注目している。発達段階にあった読書啓発が大切である。

委員長 国が第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画を策定したが、高校生の不読率の高さを主な課題としている。そこで高校生が興味を持ちやすいようビブリオバトル等の施策を掲げている。

委員 新しい指導要項では、今までの一斉授業だけではなく、自分たちで探究したり、話し合ったりする授業、アクティブラーニングについて記載があり、学校で実践している。生徒が教科書を読んで、自ら答えを探すという授業をしているが、読解力がないと解決できない。子どもが教科書を読めていないという実態が書かれている本もある。

これからの世の中は、より読解力が必要になっていくことをもっと子どもや保護者にも伝えていく必要がある。趣味としての読書とは別で、社会で活かすことができる読解力を培うことに力を入れていく必要がある。例えば、福岡市のスタンダード「あいさつ・掃除、自学、立志」に読書というキーワード入れるなど、読書の重要性をもっとアピールしていく必要がある。

また学校図書館についてだが、私の学校では良い本がたくさんそろっているが図書館が4階の隅にある。これからは、図書館がセンターの役割を果たし、子ども達が調べやすい環境を作ることができればと思う。

中学でもICTを取り入れているが、これからは図書館にICTと本と両方あって、それぞれの良さをうまく生かし、子ども達が考える力をつける読書活動に向かっていければと思う。

委員 公民館ではスタンダード文庫や、総合図書館の団体貸出の本もあり、本がとても充実している。公民館だけではなく、小・中学校とも関係があり、ボランティアの方が読み聞かせをしている。「中学生に読み聞かせ？」と思う部分もあったが、小学生の頃からしているので子ども達は身近に感じているようだ。また、赤ちゃんの頃から読み聞かせをしたいというボランティアの方が増えた。乳児や幼児に対する読み聞かせや、文庫活動などボランティアの方がそれぞれの活動をされている。ボランティアの方には「乳児の頃から本を読んであげてほしい」、「お母さんの声で本を読んでほしい」という思いがあり、とても充実した文庫活動になっている。こういう活動が末永く続いていけばと思う。

委員 私の文庫団体は、公民館で様々な文庫活動をしている。文庫団体の本を2階に置き、ある程度古くなったり、棚に入らなくなったりした本を1階のフロアに配架している。1階に本を置くと、公民館に来られた方が気軽に本を読むことができるようで、読書活動が活発になっているように感じる。

委員 総合図書館ではヤングアダルトコーナー（YA コーナー）を作り、高校生の読書活動の推進を図っているが、高校生は本を読みに来ている生徒より学習室に来ている生徒の方が多いように感じる。

博多工業高校が、TRPG という予めあるシナリオの世界を仲間達と話しながら、空想上の冒険を繰り広げるゲームを実施している。それを見学させていただいて総合図書館でも司書の有志で「YA 会」という TRPG を8月に開催し、10人くらいの参加者にヤングアダルトコーナーの紹介をし、高校生の図書館の利用を増やし、読書活動につなげたいと考えている。

委員長 小学校で、朝の読書の時間内にボランティアの方に参加していただいていると報告があった。司書教員の先生から、子ども読書活動に関する実態調査の学校の取り組みについて報告があったが、そのことについて意見はあるか。

委員 本校では空いている部屋などを活用し、読み聞かせ準備室を作り、朝の読み聞かせをボランティアの方にしていただき、助かっている。

実態調査についての意見だが、読み上げ冊数を教育委員会に報告することになっており、読み上げ冊数は増えているが、読みの質については課題があると考えている。発達段階に応じた読書は課題で、6年生でも絵本を読んでいる子もおり、それはとても素敵なことではあるが、やはり6年生になったらもっと読み物の質を高めることで、中学、高校での読書につながると思う。

発達障がいの子もいるので手作りのリーディングトラッカーを各クラスに配り、読み物に興味を持ってもらい、読みの質があがるよう取り組んでいる。読み聞かせでは、絵本も良いが、高学年の子どもには冒頭の部分を読み、読み物に興味を沸くようにしてもらおう等の工夫を考えてもらっている。

委員長 読書力には個人差があるので、高学年だから一律にとはいかないが、その前の段階からしっかり読書力が育つような取組みをすることが重要である。

委員 中学校では読み聞かせはしていないが、学校司書が中学1年生の子に図書館のオリエンテーションをすることによって、図書館の利用が非常に増え、子ども達もよく本を借りてくるようになる。また、学校司書が子どもに本を紹介してくださることも効果が上がっていると感じる。

委員長 もう少し学校司書が長い期間いればより良い。

委員 そうすれば授業にも図書館を活用しやすい。

委員長 学校図書館は読書センターでもあるが、学習センター、情報センターとしての役割も果たしていかなければならないので、人的な環境も大切である。

委員 読みの質の問題についてだが、子ども達はライトノベルには手が届くが、そこから踏み込んだ、文学的もの等ヤングアダルトの作品にはつながっていないように感じる。

委員 私達は学校から依頼されて、授業時間の45分をいただいて、本の読み聞かせだけではなく、昔話のストーリーテリングや詩の紹介などを組み合わせて、最後に本の紹介をするなどの活動をしている。それをする事で、子どもたちがブックバッグを片手に一斉に図書館に行くような姿が見られる。先程のオリエンテーションの話にもあったように、展示をしたり、何かを配ったりするだけでは不十分で、人の声で子ども達に楽しさを伝えていく必要性を実感している。

小学校6年生でも、本を読む力はさまざまである。読みやすく内容が深い絵本や読み応えのある本、科学の本などを組み合わせて紹介するとよいと思う。短めのおはなし会と一緒に楽しみ、信頼関係をつくった後に本の紹介をすることで、子ども達が本に興味を持ちやすくなる。

中学校では、年に1回1年生に15～20分くらいヤングアダルトの本を紹介しているが興味を持つ子どももいる。

本が好きな人が直接、本について話す機会が増えていけばと良いと思う。

委員 実態調査によると、小学校3年生ではたくさん読んでいのに、高校生になると全く本を読まない生徒が増えていることに驚いた。おそらく30年ほど前までは、小学生の時には本を読んでいなかったが高校生になってから本を読み始めたという子が多かったと思う。現在はその反対だが、小学生のときに「冊数をかせいで読み飛ばす、読み捨てる」ような読み方をしていると、年齢が上がるにつれてアニメやゲームの世界等のもっと魅力のある他の娯楽にいつてしまうのではないかと。小学生や中学生の時までに、「この一冊」という忘れられない本に出会う経験があれば、高校生になって

も本を読むようになるのではないかと感じる。

子どもたちの読書環境を整える時に、手渡し方も大切だが、周りにどのような本があるかということも大切であると思う。

また、「読み聞かせの経験と1カ月に読む本の冊数」の表の「親や家族から読み聞かせをしてもらった経験のある」子どもの割合についてだが、幼い頃読んでもらったことを忘れている子どもも多く自分で読んだと錯覚している子もいるので、実際はもっと多いのではないかと思う。

委員長

今読んでもらっているかで回答した子どももいる可能性もある。

本が好きな人が本を手渡すことが大切という意見あり、実態調査結果では両親や家族からの影響についての記載があったが、私は学校の先生が子どもたちに本の紹介をすることもとても影響があると思う。

大学生に心に残った本を書いてくださいとアンケートをとると、最近ライトノベル系が多い。何年か前に「車輪の下」という本を書いていた学生がいて、その本を知った経緯を聞いたら、学校の先生が紹介してくれたとのことだった。先生が紹介してくれてとても感動した。先生から紹介してもらうことで、読みたい意欲が沸くことを改めて感じた。

委員

今は教員自体があまり読んでいないように感じる。実態調査結果では中学2年生は1カ月に本を全く読まないが13.3パーセントだが、実感としては読まない生徒はもっと多いように感じる。朝読書をしているから、どうにか読んでいる生徒もいるのではないか。高校では朝読書はないのでそれが大きいのでは。

中学校では、図書館を開けるとしたら昼休みしかない。そうすると要員の問題もあり難しいし、小学校ほど授業で図書館を活用していないし、放課後は部活動があるため、学校としてはあまり「読書をしましょう」となっていないし、先生は本を勧めていないというのが実情である。

委員

実態調査についての質問だが、各学校の各学年から何クラス抽出しているのか。

委員

私の学校が昨年度対象になっていたが、小学校では各学校の各学年から1クラスが対象となっていた。

委員

小学校の1、2年生で担任の先生が読み聞かせをしているクラスや、そうではないクラスなど様々だが、高学年では担任の先生自身が読んでいるクラスの方が、本を読んでいる児童が多い印象である。中学校でも同じ印象である。担任の先生は忙しいし、様々だと思うが、先生が本に関心があるかどうかがある程度子ども達に影響するように感じる。

また、小学校で読書習慣を身に着けている子ども達は、中学校でも本を活用できている割合が多いようだ。部活や勉強で忙しくなるため皆が読んでいるというわけでは

ないが、小学生の頃から読書習慣がある子は、中学生になってもある程度読んでいるように感じる。

委員長 積み上げが大事である。

委員 中学校に勤務したときに、それまでは読み聞かせをしていなかったが、小学校で読み聞かせをしていた保護者の子どもが中学校に上がってきたことをきっかけに、読み聞かせボランティアの保護者に中学校でも読み聞かせをしていただくようにした。先生方からは「中学生に読み聞かせはどうか。」という声もあったが、小学校までの積み重ねがあったため、生徒達は大変意欲的に聞いていた。中学3年生の卒業間近になり、受験前に最後の読み聞かせをすることになったときは、先生方からは賛否両論あったが、生徒達は食い入る様に読み聞かせを聞いていた。このような経験から、中学生に対する読み聞かせももっと取り入れていくべきだと感じる。

先生からの本の紹介に関しては、なかなか機会がないが、PTA新聞で教師の写真とともに、その先生の印象に残った本を掲載されることがある。各先生が多種多様な本を紹介される。生徒達は「この先生はこんな本に関心があるのか」と先生に対する意外な面を見ることにもつながる。そういった間接的な方法でも生徒達に本を紹介することができる。

委員 生涯学習課では、小・中学校の新1年生にお勧め本リストのチラシを毎年配布し、ホームページにも掲載している。そのチラシに掲載する本は、音楽、算数、体育等の教科ごとの研究会の先生に本を推薦してもらっている。例えば、食育や有名なスポーツ選手の本や、普段あまり紹介されることのないような本も紹介している。

委員 孫は小学校5年生の時に図書委員になった。誰もなる人がいなかったからという理由で図書委員になったが、とても楽しそうにしている。特に、給食の時間に図書委員が学校放送で“自分の好きなお勧めの本”を紹介できるのでとても楽しみにしている。自分が勧めることで、友達に読んでみようかなと思ってもらえるのが面白いようだ。

最近では、歴史の本にはまっているようで、孫から天草四郎の本は泣けるよと勧められ、小学生が泣ける本とはどんな本か自分自身興味が沸き、読んでみたくなった。

これまでは、大人が子どもに本を勧めてきたが、それだけではないことを子どもから学ばされたとすごく感じた。たくさん本や新聞等を読んでいる子は語彙が豊富だとすごく感じ、コミュニケーション、会話がきちんと成り立っていると思う。

最近子ども達と色々な会話をしているけど、語彙が貧しい子どもも多くいて気になっている。親に「ゲームなんてやめなさい」と言われたらどう答えるのかと聞くと「ムリ」「できん」などの返事が来る。

今なぜできないのか状況を説明できるようになって欲しいと思う。

委員 図書委員のお話があったが、総合図書館で小学校4、5、6年生の図書委員等を対

象に実施している読書リーダー養成講座では、POP作成の実習を行っている。終了後のアンケートでは、ここにもっと時間を割いてほしい、自分の好きな本をみんなに知ってほしいという意見があった。

委員長 本が好きな子が本を紹介するというのが大切。

協議

(2) 福岡市子ども読書活動推進計画(第3次)の進捗状況について

協議資料に基づき事務局説明

学校指導課より、協議資料に基づき説明

委員長 ただいまの報告に対して質問やご意見などをいただきたい。

委員 スマホやパソコンを使って調べ学習をするということは、広い意味で活字にふれるということだと考える。保護者には「スマホを活用してニュースを読むか」など、「メディアを使った望ましい読書」についてもアンケートをして具体的施策を考えていただけたらと思う。

委員長 メディアの有効な使い方ということか。

委員 1年生に上がってきた時にひらがなが読めない子でも、家庭での読み聞かせの体験・経験が学力に結び付く。

保育園ではあいうえお表は貼ってあっても「読めない状態で入学しても、1年生で教わります」ということで、ひらがなを教えない園もある。幼稚園に通っていた子は普通に読めるが、そうでない子はひらがなを読めるようになる時間が授業ではとれていない。お家の方が忙しくて宿題を見てあげられないので家庭で定着させることができず、話しはするけど読み書きはあまりできない。ひらがな等を十分使えないまま算数などの学習を進めても、1年生の1学期途中で足し算引き算など簡単な文章題の宿題で取り残される一方である。ひらがな等の文字を読む力、文字を扱える能力から考えると、読書推進にもつながるかもしれない。

低学年だと絵だけパラパラと見て読んだということではなく、一緒について字を追って読んであげていたら、次第に自分で読むようになる。

委員長 低学年までくらいは家庭では読んであげる人が増えているようで、家庭メインで構わないと思うが、文字をどの時点で身に着けるかということが問題。小学校に入っすぐ読書の時間があると身に着ける場がない。

委員 35年目になるが、文字遊びを教えながら保幼小連絡会をしている。学校から「絵本を読みながら文字を教えなくてください。」と必ず言われる。早めに教えると伸び率

が悪いとあるが、せめて自分の名前や五十音は読み書きできてほしい。

絵本の貸出があるが、園から巣立って小学校に入学して文字が読める、読めないはその子にとっては、学習が好きになるかならないかという大きな問題になる。

うちでは週に一度“手遊びの日”として線書きから入り、本質をちょっと教えるという形でお母さん方に家でもやってもらっている。

委員 読み聞かせによって子ども達の創造性、あるいは思考する力が培われると考えられるし、読み聞かせをすることが学力の向上にもつながると言える。どのように子どもたちに本や言葉と出会わせるか工夫し、楽しさを味わわせたい。

委員 文字の学習は、小学1年生でひらがなから習う、という前提のはずが、児童ごとにまちまちな状況に変わっているので、各々への対応を考える必要がある。

委員 学年があがると読書が減るのかを知りたかった。小さい子に読み聞かせたり、先生が本を紹介したり、また、幼児期からお気に入りの本が見つかったりすると本を読みたくなるのでは。

ボランティアのお母さんの子たちはものすごく本が好き。家庭環境としてお母さんお父さんが常に本を読んでいたし、何となく自分でも読んでいた。

学力を高めるために本を読むのではないということはあると思うが、そういう姿を親が見せると子どもも変わる。

委員長 ^{ともどく}共読という言葉が昔からあるが、なかなか浸透しないのが残念。ブックスタート運動が広がってきていて、ブックスタート運動を経験した子どもたちがまもなく大学生になるが、そこで本を読まないという比率が減っていくとその効果が出たといえる。ここ数年を見ていこうと思っている。

委員 ブックスタートにかかわって7年。7年前に「ブックスタートしない？」と誘われ文庫の先輩に相談したら「止めときなさい。お母さんたちはそんな話なんか聞いてくれない。」と言われたが、このごろは「上の子は本好きですよ。」と言う人が増えた。嫌そうな人も丁寧に話すことで、聞いてくれる。言葉や絵本と出会わせて欲しいという願いがスタンダード文庫利用につながっていくと思っている。

委員 移動するときは、本を開いていたが、今はみんなスマホ。電話のかわりに LINE で連絡を取り合う。余裕がある時には本を読んでしたが、子どもが小さい時に読んでいた本で読み聞かせをすると、子も親もほっこりする。その空間が学力や子どもが成長するいろんなことにもつながると感じているので、研修などで伝えていきたい。